陳情の審議結果

陳情第5号　地域医療を見据えた佐野医師会病院の存続を求める陳情

▼陳情人

一般社団法人佐野医師会　附属　佐野医師会病院　院長　小川　達哉

▼陳情の要旨

佐野医師会病院は、佐野市内で開業されている運営会員の医師の協力により昭和36年６月の設立から佐野市の地域医療に貢献してきました。現在、67名の運営会員が佐野市内で開業され、地域医療に貢献されています。また、近年では、健康増進事業の一環として学校検診・事業所検診にも力を入れ、～地域とともに～をスローガンに一翼を担っています。

しかし、保険診療改定及び近年の物価高騰の影響により病院経営は厳しさを増し、赤字経営が継続している現況です。収益の確保と費用抑制に最大限努めてきましたが、病院経営の継続が極めて困難な状況に直面しています。

▲全文は、こちらからご覧になれます。

▼審議結果

厚生常任委員会に付託され、賛成全員で採択となりました。本会議においても賛成全員で採択となりました。

陳情第6号　市民や団体との協働によるスポーツツーリズムの推進に関する陳情

▼陳情人

個人情報のため非公開

▼陳情の要旨

本市のスポーツツーリズムを推進するに際して、広く市民に親しまれ、本市及び国内で競技人口の多いスポーツも事業の対象とし、より多くの市民や団体との協働によりこれを推進していただきたいです。

▲全文は、こちらからご覧になれます。

▼審議結果

経済文教常任委員会に付託され、賛成なしで不採択となりました。本会議においても賛成少数で不採択となりました。

陳情第7号　学校における小動物・鳥の飼育の廃止に関する陳情

▼陳情人

個人情報のため非公開

▼陳情の要旨

小動物の飼育は、これまで「命を大切にする心を育む教育」として行われてきました。しかし、現実には、動物の飼育が触れ合い、命を慈しむ場ではなく、餌をあげるだけの事務的、義務的なものになっている学校も少なくはありません。一部の学校には当てはまらない（飼育管理が十分である学校）例もあるものの、全国的に学校飼育の管理体制が不十分である事例が多数報告されており、佐野市においても改善の必要性を感じています。

現に、私自身、近くの小学校で十分な飼育をされていないうさぎや鶏が心配で何度も学校に足を運び、様子を見に行っていたことがあります。しかし、残念ながら、十分な世話がされず命を落としてしまった姿も実際に見てきました。その光景は忘れることはできず、深い悲しみと同時に「このままでは同じことが繰り返されてしまうのではないか」という不安を強く抱きました。なお、私が様子を見に通っていた学校では、当時訴えたことで現在は飼育をやめたため、悲しい出来事は繰り返されていない様子です。その経験からも改善は十分に可能であると確信しています。